

「生きる」ことを愛した人

みかじまよしこ

郷土の歌人 三ヶ島霞子

三ヶ島霞子(本名・三ヶ島よし、後に倉片よし)は、明治19年、入間郡三ヶ島村(現在の所沢市)に生まれました。病氣と闘いながら経済的にも楽ではない生活の中で短歌を作り続け、昭和2年に40歳でその生涯を閉じるまでに6,000首以上を残した歌人です。

ふるさと所沢に生まれ、今も市内の実蔵院(案内図2参照)にある倉片家墓地に眠る、郷土の歌人・三ヶ島霞子についてご紹介いたします。

※問い合わせ 社会教育課(☎2998-9242・FAX2998-9010)



▲歌人 三ヶ島霞子

三ヶ島霞子の「秀歌百首」から

秀歌百首とは…
平成6年『三ヶ島霞子』発行に際して、3人の歌人の方が選んだものです。

あめつちのあらゆるものにとよせて歌ひつくさばゆるされむかも
明治42年

水色の雨の中にて火の燃ゆる夜明けの山に君を思へる
大正3年

ふるさとの各児を見にゆく汽車の銭つくとこの日ぬひとりす我は
大正8年

年玉の手拭たたむわが前をゆきかひ遊ぶ吾子の足見えつ
大正10年

わが家とさだめられたる家ありて起き臥しするはたのしかりけり
大正15・昭和元年

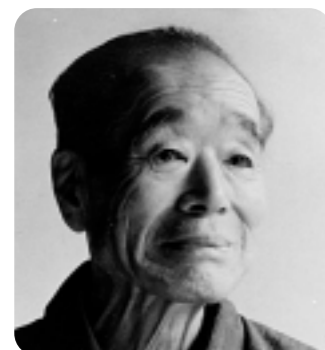
紙に吐きし啖赤からずわが窓にあたる障子の日かげのしづけさ
昭和2年



霞子歌碑
中氷川神社境内(三ヶ島)
昭和61年9月建立
◎案内図1参照

はるのあめ
けふるけやきの
こずゑより
をりくつゆの
かまやきておつ

霞子



▲霞子の異母弟 俳優
左 卜全(三ヶ島一郎)



▲大正9年10月26日
左から原 阿佐緒、三ヶ島霞子、倉片みなみ、倉片寛一、石原 純

三ヶ島霞子資料室開設10周年

資料室へ足を運んでみませんか!

平成4年、霞子の遺品や関係資料740点が、長女の倉片みなみ氏から所沢市へ寄贈されました。寄贈資料を広く市民の皆さんに公開し、郷土の歌人を学ぶ場として、平成6年に霞子の出身地にある三ヶ島公民館内に「三ヶ島霞子資料室」を開設し、10周年を迎えました。



来室者でにぎわう資料室

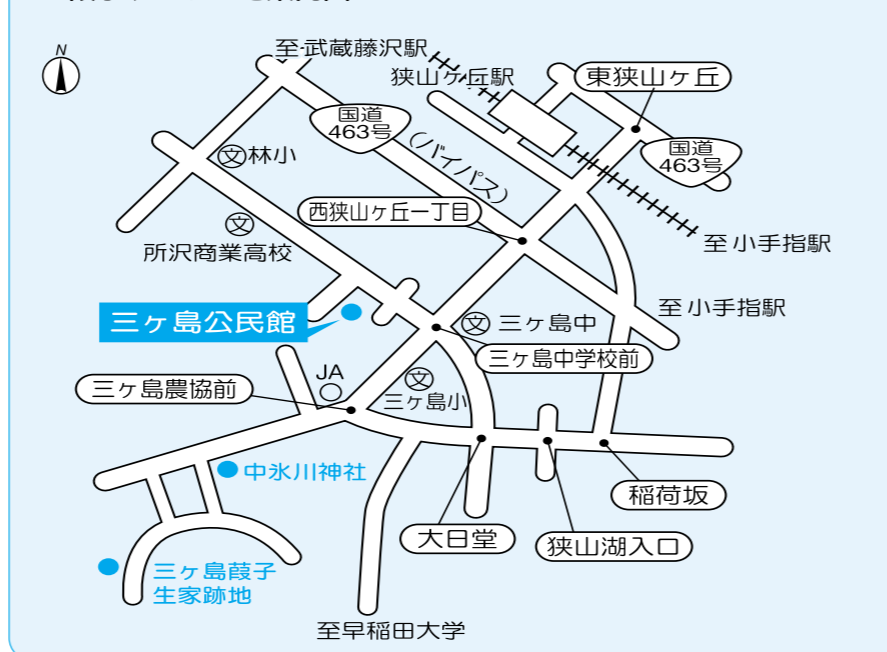
資料室には、霞子の生涯を紹介した年表や写真、直筆の短歌、日記、手紙、交流のあった歌人(与謝野晶子・島木赤彦・古泉千樫・原 阿佐緒・斎藤茂吉ほか)の手紙類や、霞子の異母弟である俳優の左 卜全(本名・三ヶ島一郎)の資料を展示しています。また、関連書籍も自由にご覧いただけます。

霞子の生まれた地・三ヶ島で、明治・大正期に思いをはせながら、文学に親しんでみませんか。

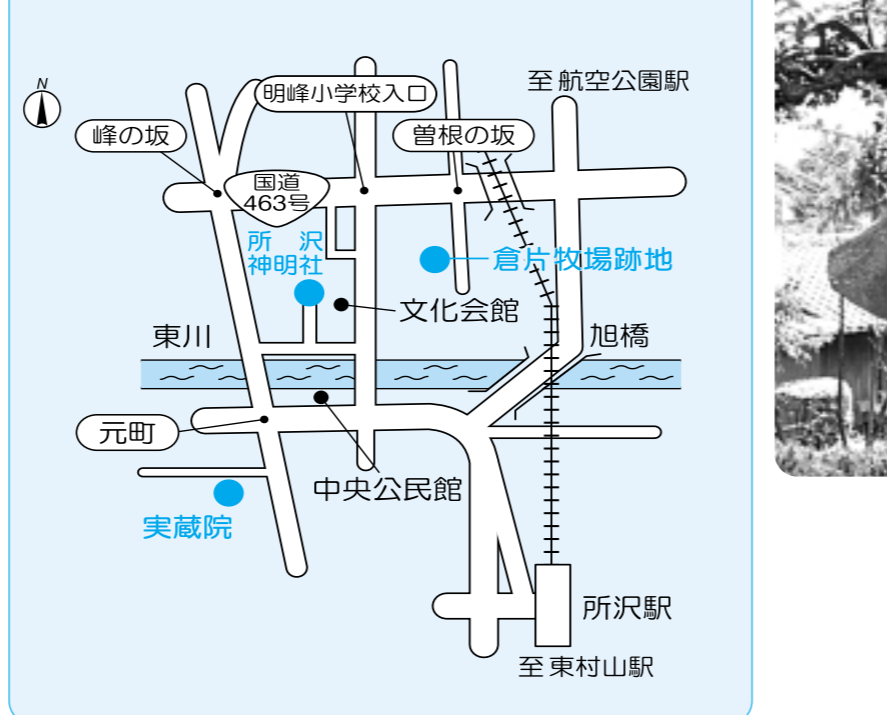
◆三ヶ島霞子資料室◆

所在地 三ヶ島5-1639-1(三ヶ島公民館内)
休室日 月曜日・祝休日・年末年始
開室時間 午前8時30分～午後5時
入場料 無料
交通 ①ところバス西路線「三ヶ島公民館」下車すぐ②西武池袋線「小手指駅」下車。西武バス「三ヶ島中学校」下車徒歩5分
◎案内図1参照
問い合わせ 三ヶ島公民館(☎2948-1204・FAX2948-1429)

◆霞子ゆかりの地案内図1



◆霞子ゆかりの地案内図2



霞子歌碑
所沢神明社境内(宮本町)
昭和33年11月建立
◎案内図2参照

しみじみと
障子うすぐらき
まどのそと
音たて、雨の
ふりいでにけり
霞子詠
みなミ書

文学に目覚めたころ
霞子の生家(案内図1参照)は、本家が代々三ヶ島村中氷川神社の神職を勤める三ヶ島家で、分家である霞子の父は三ヶ島小学校や小手指小学校の校長の職を勤めていました。霞子は、少女のころから文学に親しみ、12歳ごろから短歌を作り始めました。

明治35年、浦和町(現在のさいたま市)にある埼玉県女子師範学校へ進学した霞子は、そこで寄宿生活をします。

同級生と過ごす楽しい寄宿生活や、松山(現在の東松山市)・吉見・小川・熊谷などをめぐる旅行に出かけたときの様子などが、日記にも書かれています。

しかし、もともと身体が丈夫ではなかった霞子は、19歳のとき、結婚のために学校を途中で退学しなければならぬ状態でした。

【与謝野晶子との出会い】
やがて、病気が快復した霞子は、東京府西多摩郡小宮村(現在の東京都あきる野市)の尋常高等小学校で代用教員になります。

山村の間借り部屋で一人暮らしをしながら、短歌を作ったり雑誌へ投稿する日々を送り、23歳のとき「女子文壇」の与謝野晶子選「新派和歌欄」に初入選。以降、与謝野晶子の指導を受け、「スバル」や「青嶺」などに数多くの短歌や小説を発表します。

若いころの歌は自由で浪漫的なもので、与謝野寛にも才能を高く評価されました。このころ始まった歌人・原 阿佐緒との交流は、生涯を通じるものになります。

島木赤彦・古泉千樫に師事
退職、結婚、長女の出生を経た霞子は、原 阿佐緒のすすめもあって、30歳で島木赤彦に入門し、「アララギ」に短歌を発表。歌人として活躍の場が広がった。先づ、霞子の身体を次々と病が襲います。病気をうづさないうちに、霞子はまだ幼い長女を、所沢にある夫の実家・倉片牧場(案内図2参照)に預けなければならぬようになりました。霞子の歌は、家庭生活の変化や病苦によつて、現実性や客観性が増していきます。

その後、古泉千樫に師事し、晩年は深みのある独自の歌風に至ります。大正10年に自費出版した生涯で唯一の歌集『吾木香(われもこう)』には、霞子自身が選んだ短歌515首が収められています。

市では、三ヶ島霞子資料室だより「われもこう」を年2回発行するほか、家人などによる講演会の開催や所沢市生涯学習ホームページ(<http://www.tokozaka.jp>)への掲載を通じて、多くの方が、郷土の歌人へ関心を寄せていただけるよう努めています。

この機会に、皆さんも市内の三ヶ島霞子ゆかりの地を散策するなど、ふるさと所沢の文化に親しんでみませんか。

『三ヶ島霞子II』を発売

市では、資料室開設に伴い発行した『三ヶ島霞子』に続き、『三ヶ島霞子II』(B5変形判・140頁)を発行しました。写真もふんだんに取り入れた冊子で、霞子の生涯や秀歌百首の鑑賞、資料室の歩みなどが掲載されています。

市内の各図書館・公民館等で閲覧できるほか、市役所1階・市政情報センターおよび三ヶ島公民館で1部500円で頒布中です。また、郵送でも購入できますので、ぜひご覧ください。

- ◆郵送による頒布
書籍代に送料を加えた金額を、現金書留か定額小為替で、①書籍名・冊数②送料③領収書の宛名を明記のうえ、市政情報センター(☎359-8501・並木1-1-1)へ郵送
- ◆頒布に伴う送料

購入冊数	1冊	2、3冊	4~6冊	7~9冊	10冊以上
郵送料金	290円	340円	450円	590円	着払い

頒布先・問い合わせ 市役所1階・市政情報センター(☎2998-9206・FAX2998-9041)



▲埼玉県女子師範学校時代の絵